

## 第37回 MASセミナー

「建築を女性からの視点で再考する」

日時：2023/10/07(土)

講演：14:00~16:00

先日ショックなニュース（NHKクロ現）を見ました。東京23区内の公衆トイレの62%から女性専用ブースが消えたとのことでした。多様化の時代には多機能トイレが必要とされ、総面積の関係でトイレ数が減らされたことが原因です。公園法により建物が2%までしか作れない法律によるものと報道されていました。結果、女性や子供にとって安全上怖くて使えない状況が生じているとのこと。多様化の時代なのに、突然、女性専用はいらぬと言う話は本末転倒です。誰にでも優しい社会にしようとする対応が、防犯安全が必要な弱者の無視となるのは如何なものでしょうか？建築における女性への視点は今まで考慮が足りなかったことが多々あります。今回は『建築を女性からの視点で再考する』ことをあえてテーマとして、多様化を考えると同時に、これまで見落とされてきたことに真剣に目を向けてみたいと思います。（村上晶子）

みんなが集まる樹の下に



(湯本長伯)

女性の視点からというに限られているようですが、多様性の中に個々の立場や考えが埋没するのは、誰もが尊重されることとは違います。一人一人の違いを尊重されることをどう実現するのか、かなり深い考察が要るようです。

### 建築を女性からの視点で再考する

日本に於ける女性の地位向上ということとは近年取り立てて言われなくなったと思うが、男女間にある社会的な優位性はまだ色々ありそうである。日本に於ける女性の優秀性は古典文学などにも認められて今日にいたってきたはずだが、その事と現実的な社会の対応は必ずしも一致していないのは、最近の名門医学部の入試結果で捏造されていた事実をみても明らかに在りそうである。優秀な女性を認めつつも依然、男社会の中で従来の女性らしさ（男性の要望）を求める時、鍵はリスペクト、あるいはダンディズムというものではないだろうか。



今井 均

### 「2択の時代は終わった」と

想いと現実がこれほど複雑化した時代はないのでは。で、議題は3つほどの選択肢か。

男女問題：既得法令順守で、女性軽視が見えたのは確かだが、強くもなった。より議論を。

行動の意味：建築から見た男女差を再確認し得る要点を、政治家、省庁、メディアに申し立てるべき。

建築家の限界：環境問題並に、これも政治社会問題。我々は社会性と感性の両面に関わるが、両方に強い者は少ない。バランスで行動する、では一般常識だけに頼ることになる



大倉富美雄

### 「女性の視点でつくる建築」

アーキテクチャー（建築）という言葉は、統合し構築する、という意味を内包する言葉だ。今の産業・経済社会はそのような男性脳が作りだした世界である。一方、女性脳は足元の生活を優先し、弱きものや小さきものに愛着し、共生することを好むように思う。戦争や暴力はもってのほか。男性脳と女性脳、大切なものの優先順位が違うようだ。女性の視点で「建築」するとき、現代社会の背景にある価値観の違いに気づくかもしれない。



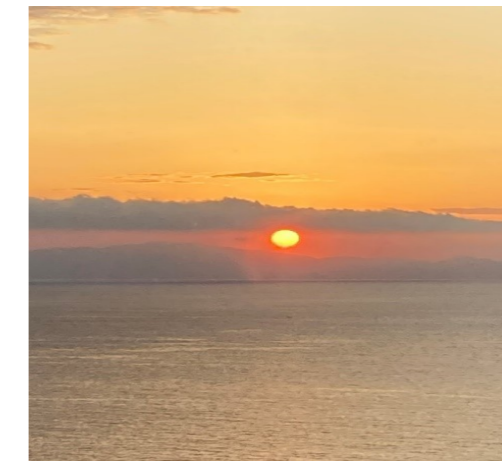
田口知子

### 「女性は弱者か？」

ジェンダーの意識がタブーになり、社会でも、盛り場でも、家庭でも、男女の差別はなくなった。今では家庭を切り盛りする主婦も存在する。女性は喫茶やレストランや百貨店を占領。女性の言葉遣いや礼儀作法も消滅した。配慮すべきは「子供、老人、障がい者」ではないか。家庭や学校や街角にこの人たちを守る場が少ない。四国奥地の四万十川の流れる街角で出会ったベンチが眩しかった。



宮田多津夫



### 公共トイレからキッチンへ

リード文では公共トイレを問題提起として挙げました。小さなことにこそ公共の本質が見えがくれしているからです。会場では別の視点として、生きていくのに最も大切な場所なのに隅に追いやられてきた『台所→キッチン』に絞って、具体例を挙げながらお話しします。ここにこそ、女性からの視点で考える建築文化の本質があるからです。多様性の時代だからこそ台所文化の公共化が時代の核になると考えます。



村上晶子

### ユダヤ教信者の頭には

キッパという皿型の帽子が・・・

頭には帽子が載っていますが、良く見ると被って居るのは男性だけ・・・「男は理屈が先行し神の存在を感じる心を失いがちなので、常に頭にキッパを載せる事で頭上の神を意識させられるよう仕向けられてる。しかし感受性豊かな女性は、常に神の心を感じ取る力が備わって居るので「必要ない」のだそうです。複雑さが増すこの時代、男女で違うと言われる思考方法に付いて考えてみる事も必要では・・・



武田有左

### カイロまちづくりに観る

女性のコミュニケーション力

文化庁事業でカイロの旧市街で保存まちづくりに関わりました。住民参加のワークショップのスキルをエジプトの建築家に伝えて、保存まちづくりを実施するというスキームです。現地を訪問して男女別にワークショップをしたのですが（イスラム文化により、一緒だと男性のみが話をする）、そこで感じた女性のポジティブなコミュニケーション力について、お話ししたいと思います。



連健夫